

2024年12月期 第2四半期（中間期）

決算説明会資料

2024年8月9日

株式会社 日本アクア



証券コード 1429

決算ハイライト

- ・戸建部門：市場低迷の中、予想通りに着地上位等級の施工は予想より緩やかに推移
- ・建築物部門：建設資材不足等に起因する工事遅延により売上計上時期にずれ

売上高

13,112百万円

YoY Δ 0.3%

期初予想 13,556 百万円

売上総利益

2,906百万円

YoY Δ 1.5%

期初予想 3,012 百万円

経常利益

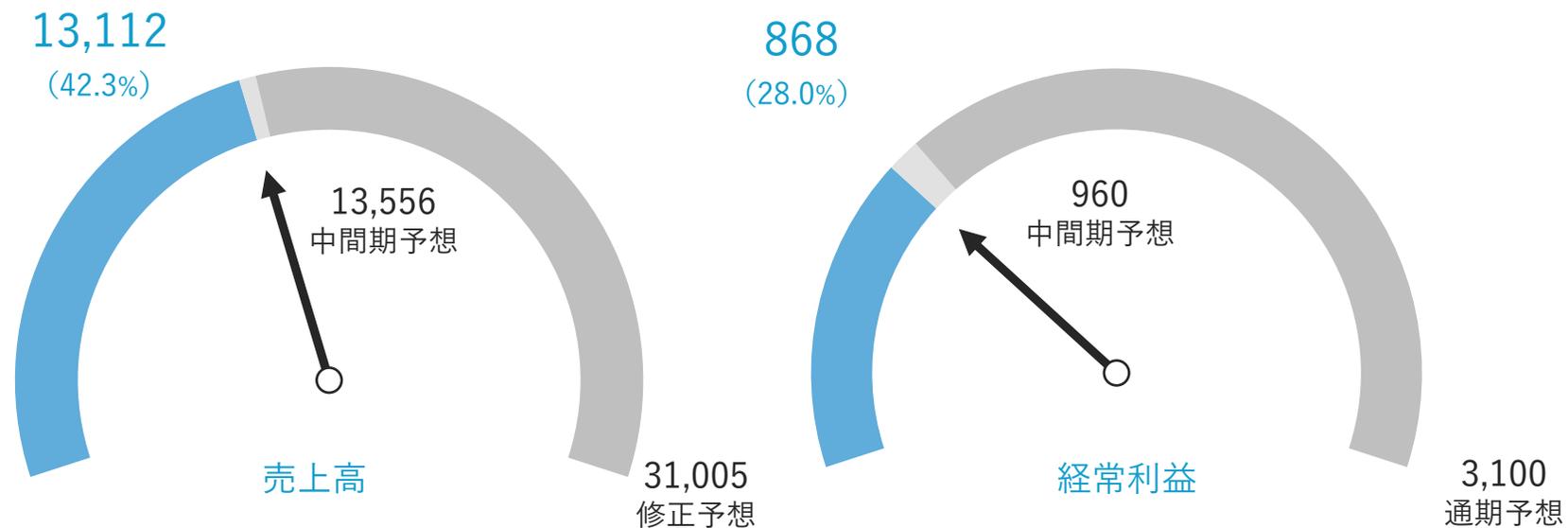
868百万円

YoY Δ 38.0%

期初予想 960 百万円

業績予想に対する進捗

（単位：百万円）



		FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023
売上高	中間期	10,003	9,989	10,712	11,742	13,158
	通期	21,366	21,872	23,903	25,670	28,341
	進捗率	46.8%	45.7%	44.8%	45.7%	46.4%
経常利益	中間期	720	783	335	936	1,400
	通期	1,909	1,911	1,429	2,359	2,917
	進捗率	37.7%	41.0%	23.5%	39.7%	48.0%

第2四半期（中間期）までの取り組みと今後の見通し

	第1四半期 売上高 62.7 億円	第2四半期 売上高 68.4 億円	第3四半期 売上高 約 86 億円	第4四半期 売上高 約 92 億円
<p>戸建部門</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクアフォーム、アクアフォームLITEの熱伝導率が変わり断熱性能が向上 ・重点ビルダーからの受注棟数増加中 ・気密測定サービス標準化を推進 		<ul style="list-style-type: none"> ・施工体制の整備を背景としたウレタン施工業者からシェア奪取 ・主力2製品の断熱性能向上を背景とした他の断熱施工からのシェア奪取 ・上位等級（等級6以上）と高機密性能の組み合わせで差別化 ・気密測定サービスや防水施工のバンドル営業によるクロスセル 	
<p>建築物部門</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・FY2024通期予想の約86%を確保 ・建築物市場拡大に合わせ原料販売が伸長 ・施工人員増に伴い吹付機械販売が増加 ・第2四半期よりアクアモエンNEO施工が増加 		<ul style="list-style-type: none"> ・施工体制の整備を背景としたウレタン施工業者からのシェア奪取 ・半導体工場や大型再開発などのアクアモエンNEO施工が本格稼働 ・当社が施工の対応ができない物件への原料販売の増強続く 	
<p>全社・防水部門</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・防水部門の非住宅改修案件が増加 ・円安・ナフサ高の中、原料仕入価格を抑制 ・工務社員の中途採用は順調に推移 ・施工力整備を背景とした営業強化 ・2024年5月末に宮崎営業所を開設 		<ul style="list-style-type: none"> ・防水部門では、日本を代表する大手企業への改修施工提案が着々と進行中 ・自社+認定施工店で年間100名強の施工人員増を目標に積極採用中 ・メディア戦略（住宅専門紙等への露出向上等）を通じた強みの訴求 	

Agenda

01 2024年12月期 第2四半期
(中間期) 決算概要

02 市場環境

03 戸建部門

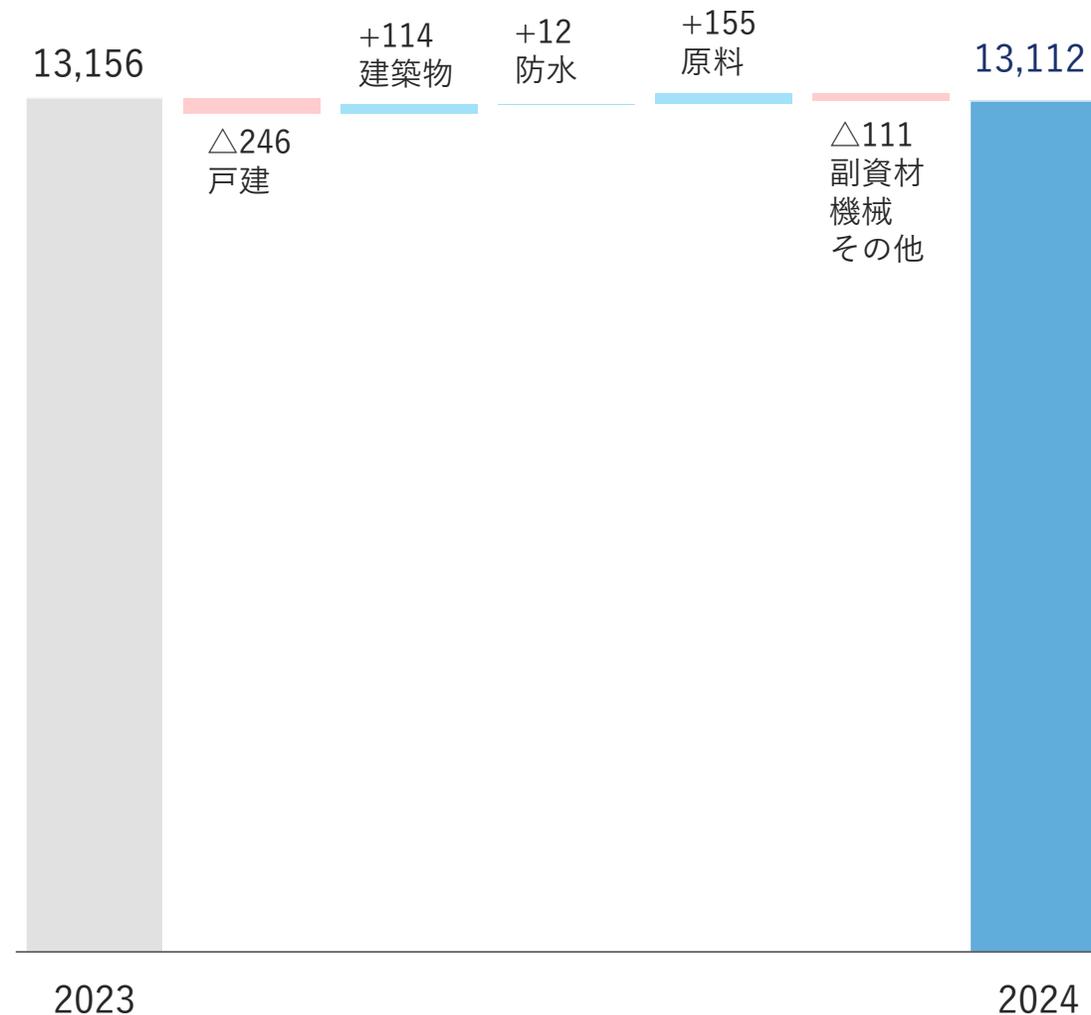
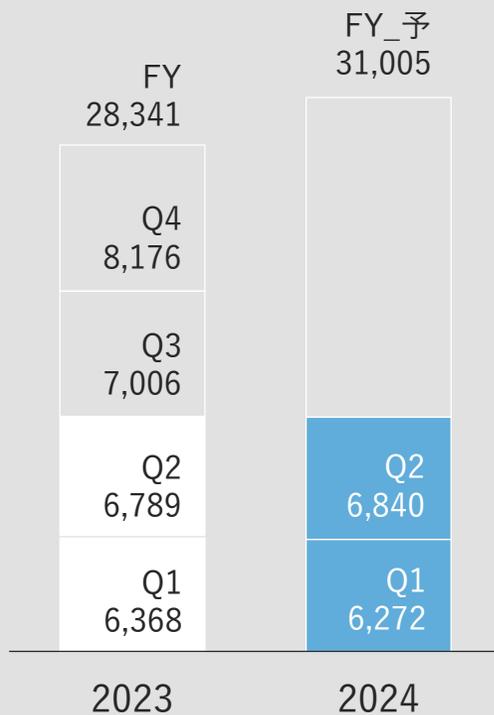
04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 Appendix

売上高 （単位：百万円）

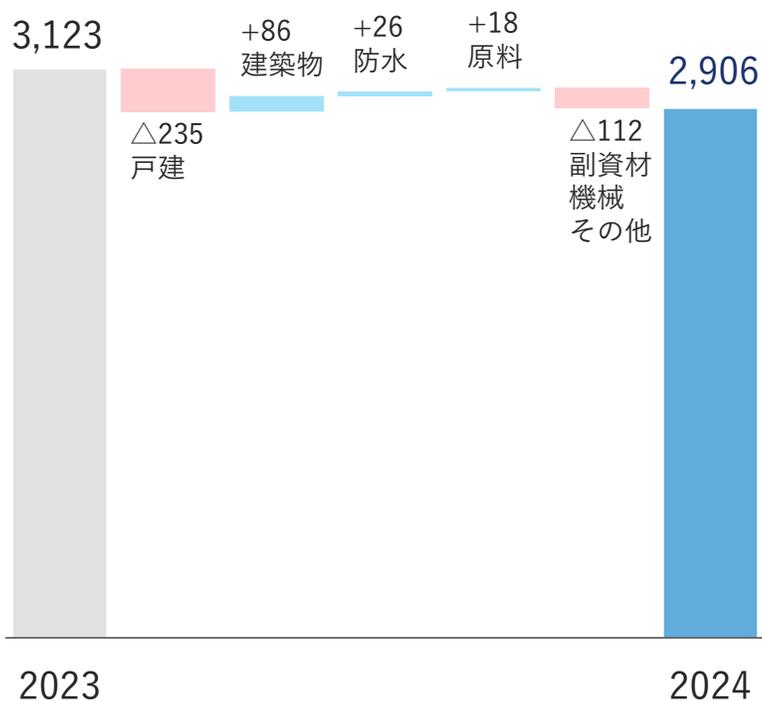
前年同期比 $\triangle 45$ 百万円 $\triangle 0.3\%$



売上総利益 （単位：百万円）

前年同期比 $\Delta 217$ 百万円 $\Delta 6.9\%$

売上総利益率 23.7% \blacktriangleright 22.2%

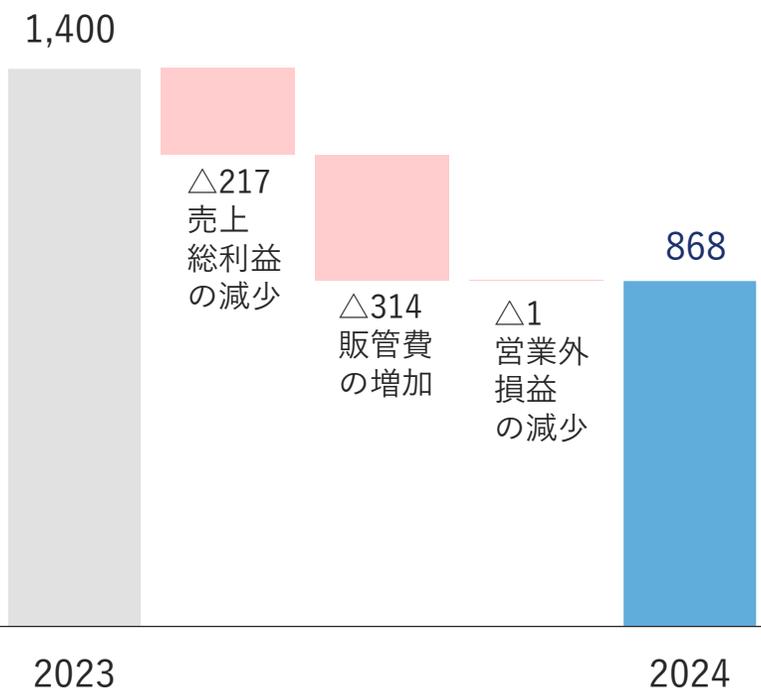


品目別売上総利益

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	FY2024 Q1	Q2
売上総利益	1,457	1,666	1,734	2,066	1,447	1,459
戸建	876	866	922	1,019	733	774
建築物	361	450	540	610	454	443
防水	$\Delta 21$	$\Delta 12$	$\Delta 1$	0	2	$\Delta 10$
原料販売	63	82	89	107	74	89
機械・副資材・その他	177	279	182	329	181	162

経常利益 （単位：百万円）

前年同期比 $\triangle 531$ 百万円 $\triangle 38.0\%$
 経常利益率 10.6% \blacktriangleright 6.6%



- ・ 人件費の増加：人員増及び給与等の増額
- ・ 2024年度より認定施工店報奨金の一部を引当計上



主な販管費

注) 2024年第2四半期より人件費の算出方法を変更したため、遡って修正しています。

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	FY2024 Q1	Q2
売上総利益	1,457	1,666	1,734	2,066	1,447	1,459
販売費及び一般管理費	829	913	915	1,383	1,002	1,055
人件費	432	480	477	738	557	577
施工店報奨金	-	-	-	150	2	9
実習生関連費	56	62	60	89	72	93
旅費交通費	53	66	64	66	53	58
地代家賃	45	46	48	50	49	55
減価償却費	39	41	41	42	41	43
経常利益	641	758	824	691	453	415

原料価格の感応度

米ドル月中平均
(単位：円)



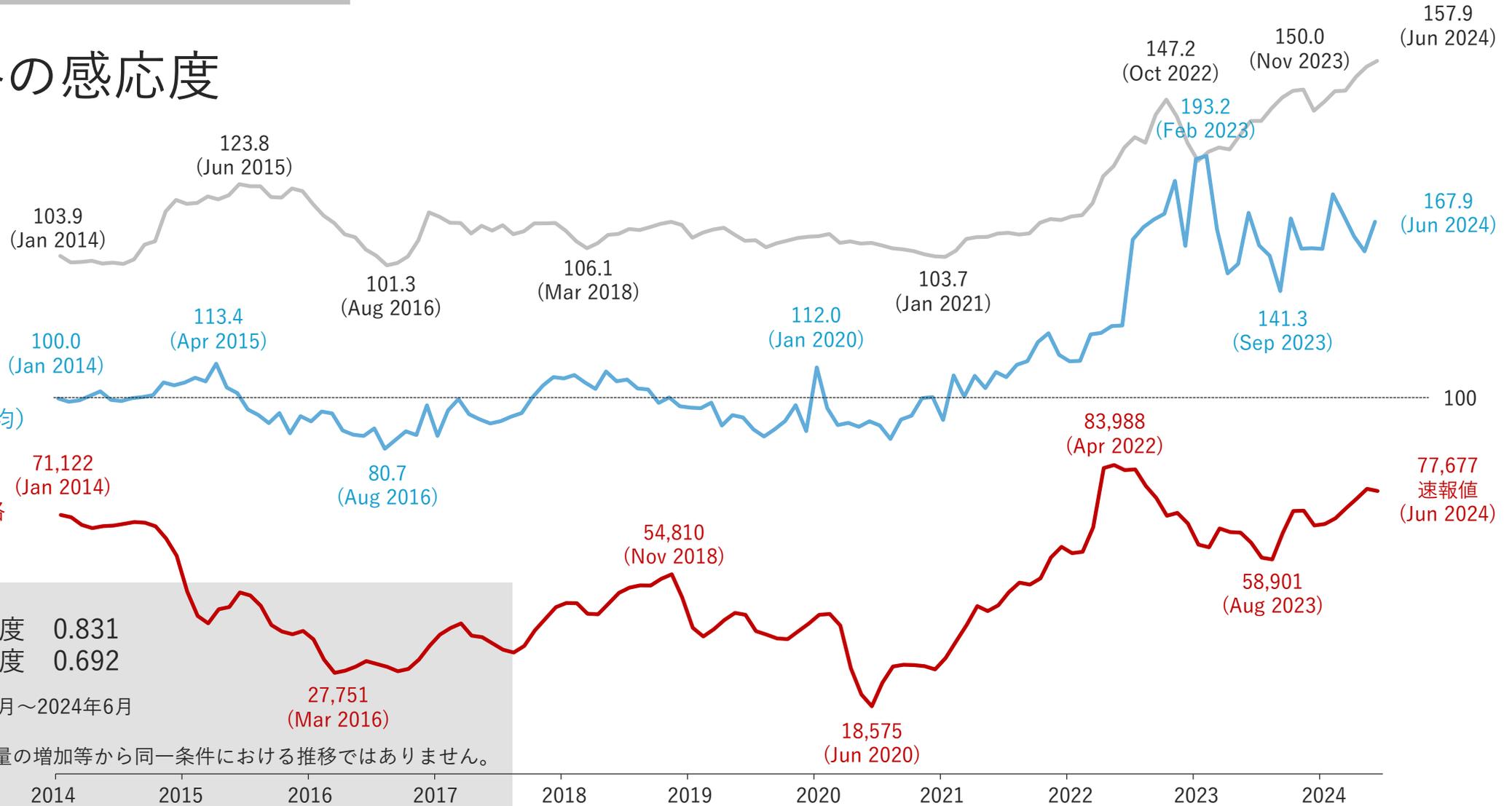
原料購入単価 (平均)
2014年1月 = 100

ナフサ輸入CIF価格
(単位：円/kl)

米ドルとの感応度 0.831
ナフサとの感応度 0.692

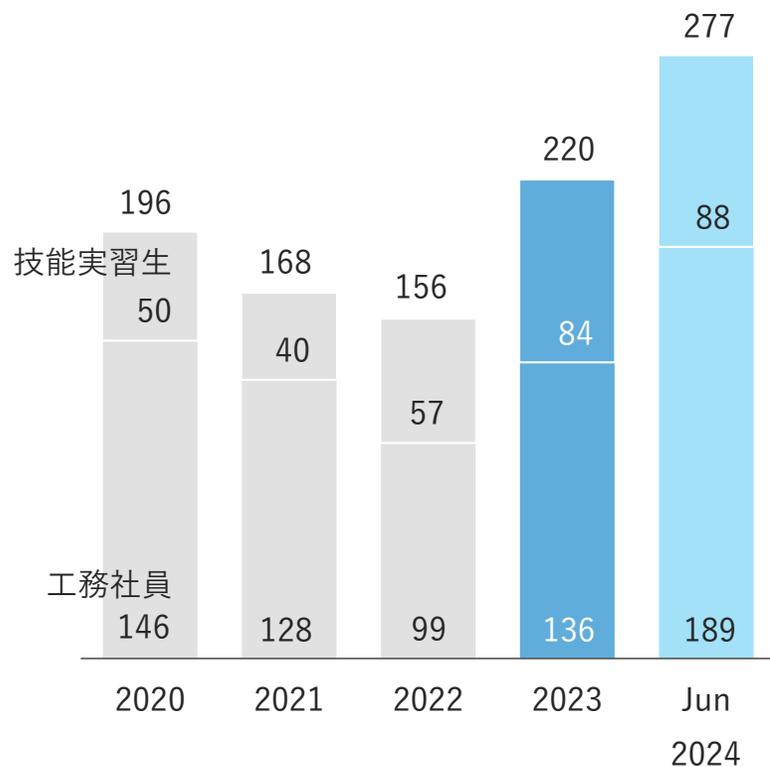
推計期間：2014年1月～2024年6月

取扱商品および購入量の増加等から同一条件における推移ではありません。



工務社員数（日本アクア）

技能実習生には技能実習法に基づく一時帰国があります。



取り組み

施工力の推移

日本アクアに人が集まる理由



高待遇・好条件



完全土日休み



プライム上場会社



育成担当部署



職住近接



若手が多い

業績概要

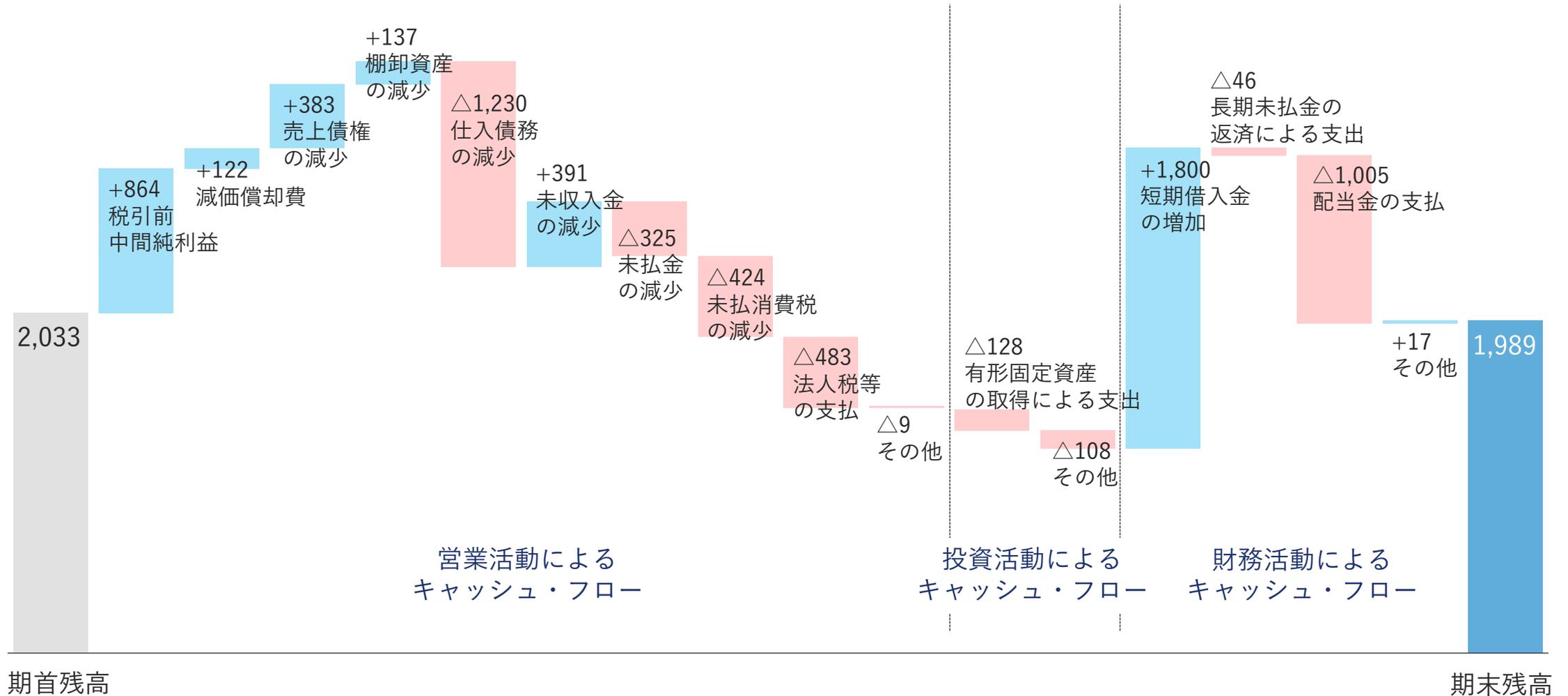
（単位：百万円、％）

	2023年	2024年	前年同期比		中間期予想比			2024年
	中間期	中間期	金額	(%)	予想	金額	(%)	通期予想
売上高	13,158	13,112	△45	△0.3	13,556	△443	△3.3	31,005
戸建	6,508	6,261	△246	△3.8	6,255	+6	+0.1	14,408
建築物	3,848	3,993	+144	+3.8	4,376	△383	△8.8	10,394
防水	248	261	+12	+5.1	284	△23	△8.2	695
原料販売	766	921	+155	+20.3	1,040	△118	△11.4	2,235
副資材・機械・その他	1,786	1,674	△111	△6.3	1,599	+75	+4.7	3,271
売上原価	10,034	10,206	+171	+1.7	10,543	△337	△3.2	23,596
売上総利益	3,123	2,906	△217	△6.9	3,012	△106	△3.5	7,408
戸建	1,743	1,508	△235	△13.5	1,492	+16	+1.1	3,585
建築物	811	897	+86	+18.0	1,024	△127	△12.4	2,774
防水	△33	△7	+26	-	13	△20	-	38
原料販売	145	164	+18	+12.6	193	△28	△15.0	398
副資材・機械・その他	456	343	△112	△24.7	289	+54	+18.8	611
販売費及び一般管理費	1,743	2,057	+314	+18.0	2,051	+5	+0.3	4,308
営業利益	1,380	849	△531	△38.5	960	△110	△11.5	3,100
経常利益	1,400	868	△531	△38.0	960	△91	△9.5	3,100
当期純利益	948	579	△368	△38.8	648	△68	△10.5	2,092
1株当たり配当金（円）								34.0

貸借対照表（単位：百万円）

	2023年 12月31日	2024年 6月30日		2023年 12月31日	2024年 6月30日
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	2,033	1,989	買掛金	6,453	5,151
受取手形、売掛金及び契約資産	6,397	6,000	短期借入金	2,400	4,200
電子記録債権	1,098	1,029	流動負債合計	10,927	10,411
棚卸資産	2,209	2,098	固定負債		
未収入金	3,648	3,218	固定負債合計	159	115
流動資産合計	15,472	14,462	負債合計	11,087	10,527
固定資産			純資産の部		
有形固定資産	4,367	4,368	資本金	1,903	1,903
無形固定資産	85	83	資本剰余金	1,912	1,912
投資その他の資産	466	493	利益剰余金	7,523	7,098
固定資産合計	4,919	4,944	自己株式	△2,035	△2,035
資産合計	20,392	19,407	純資産合計	9,304	8,879
			負債純資産合計	20,392	19,407

キャッシュ・フロー計算書 （単位：百万円）



Agenda

01 2024年12月期 第2四半期 (中間期) 決算概要

02 市場環境

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 Appendix



市場環境

脱炭素社会に向けた 住宅・建築物

2030年度46%削減目標

・原油換算で6,240万KLの削減

うち住宅

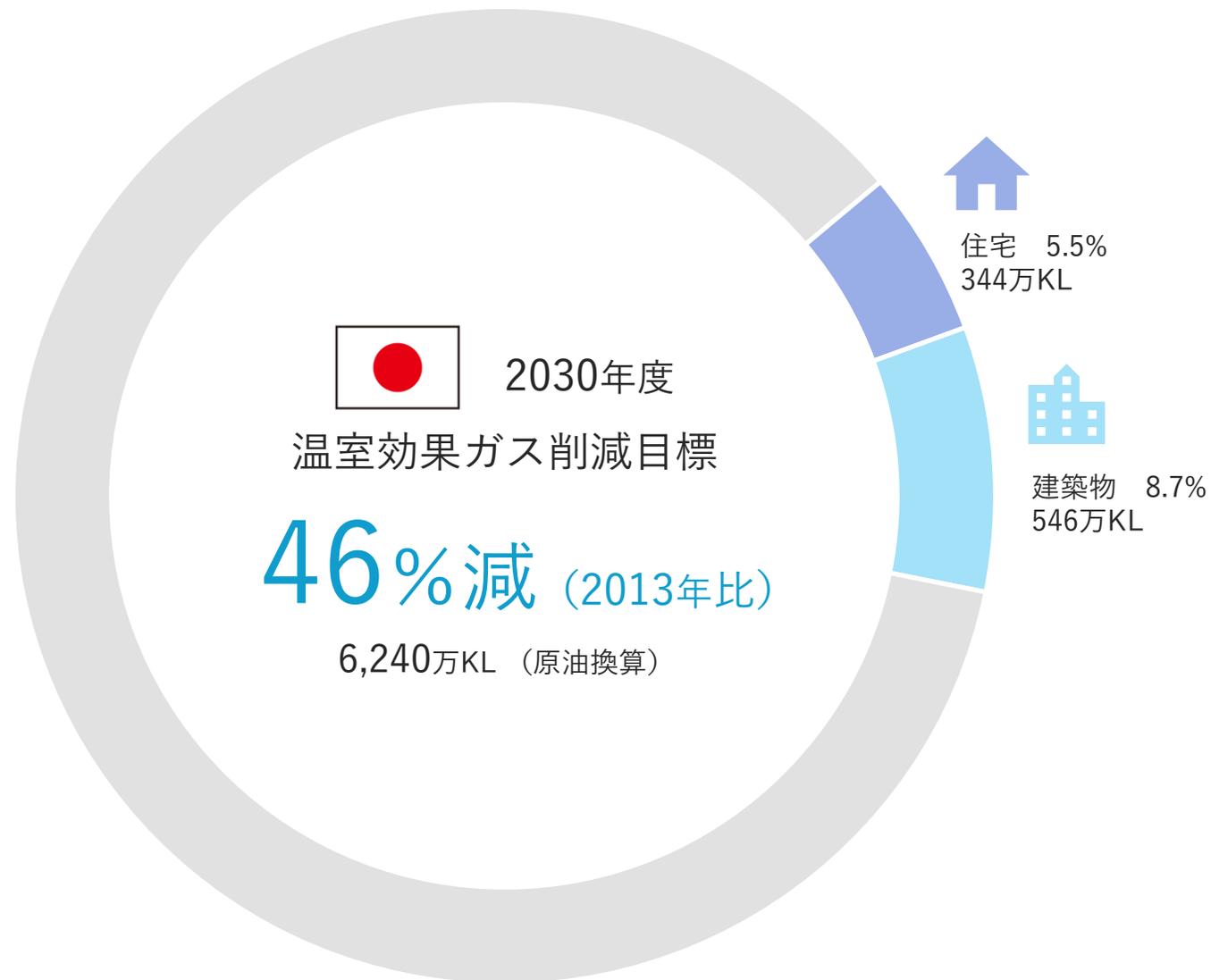
・新築住宅における省エネルギー性能の向上 253万KL

・既存住宅の断熱改修 91万KL

うち建築物

・新築建築物における省エネルギー性能の向上 403万KL

・既存建築物の省エネルギー化及び改修 143万KL





市場環境

2030年に目指すべき 住宅・建築物の姿



新築の住宅・建築物

ZEH、ZEB水準の省エネ性能を確保



新築の戸建住宅

60%において太陽光発電設備を導入



義務基準をZEH水準まで引き上げ

断熱等性能等級 5 * (6地域のUA値 = 0.60)
BEI = 0.8*

*断熱等性能等級はP21、BEIはP20をご参照ください。



義務基準をZEB水準まで引き上げ

中大規模は用途に応じてBEI = 0.6/0.7
小規模はBEI = 0.8



融資や税制による支援



省エネ性能表示の施行



地方自治体による推進

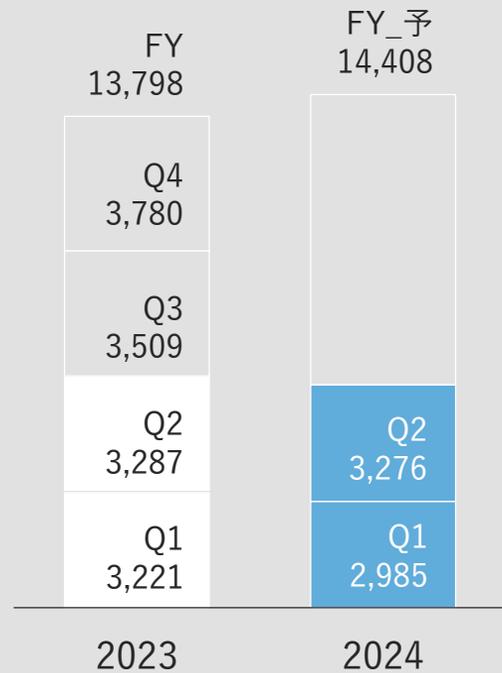


機器や建材の性能向上

Agenda

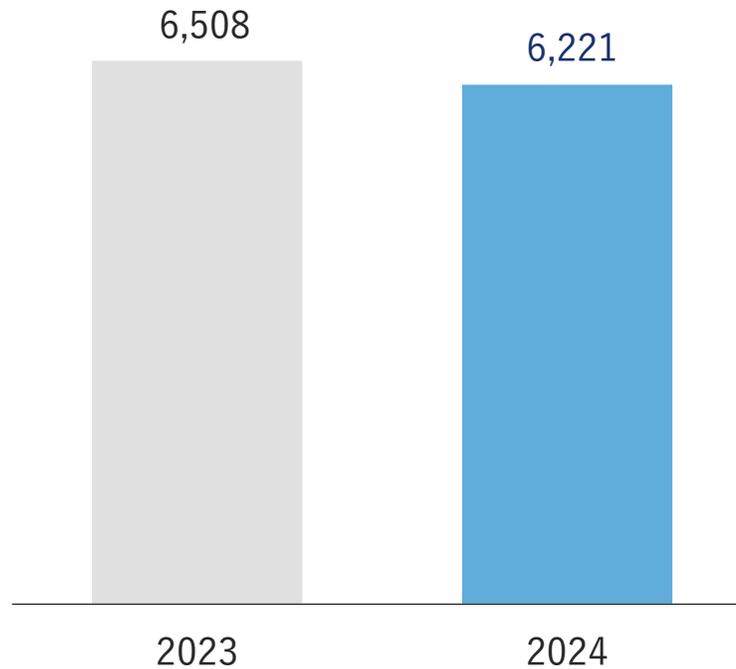
- 01 2024年12月期 第2四半期 (中間期) 決算概要
- 02 市場環境
- 03 戸建部門**
- 04 建築物部門
- 05 防水部門、その他
- 06 Appendix

戸建部門 （単位：百万円）



前年同期比

- ・ 施工単価（1棟当たり）は約3%上昇
- ・ 断熱等級5（ZEH水準）が標準化、上位等級は予想より緩やかな広がり
- ・ 施工棟数は約6%減少
- ・ 減少要因は市場低迷に伴う既存取引先の発注数の減少
- ・ 市場低迷の中、予想通りの着地



前年同期比 $\Delta 246$ 百万円 $\Delta 3.8\%$
 売上総利益率 26.8% \blacktriangleright 24.1%

戸建部門 通期見通し

（単位：百万円）

		Q1	Q2	Q3	Q4	通期
売上高	2023年	3,221	3,287	3,509	3,780	13,798
	2024年	2,985	3,276	約 3,800	約 4,300	14,408
売上総利益	2023年	876	866	929	1,012	3,685
	2024年	730	777	非開示	非開示	3,436
施工棟数	2023年比	△11%	△1%	+13%	+17%	+5%
施工単価	2023年比	+5%	+1%	△3%	△3%	△0%

施工棟数（数量効果）

- ・通期の数量効果は+648百万円
- ・競合ウレタン施工業者や他の断熱材からの切り替えを図る

施工単価（価格効果）

- ・通期の価格効果は△38百万円
- ・引き続き価格競争は激化



競合ウレタン施工者

- ・2024年問題対応で稼働低下
- ・職人の高齢化、採用困難
- ・価格競争では当社より不利（原料仕入価格等コスト高）

繊維系等他の断熱材

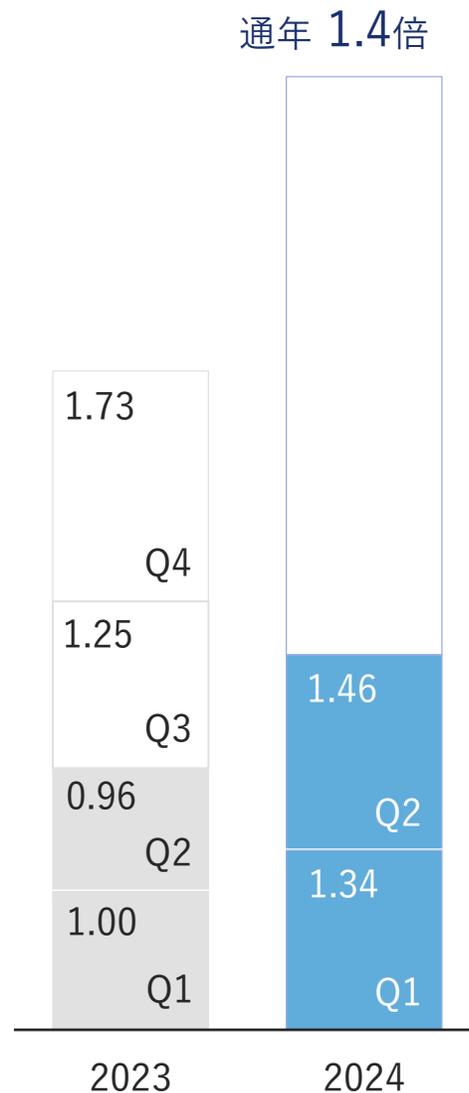
- ・2024年問題対応で稼働低下
- ・運送費上昇でコスト優位性が弱まる
- ・高气密性能の施工難易度が高い



取り組み

断熱等級 6 の広がり

(2023年12月期第1四半期を1とした場合の倍率)



最多施工価格は「断熱等級5」の1.5~2倍程度

アクアフォームNEOにアクアフォームLITE等を組み合わせることで競争力がある（価格を抑えた）仕様も可能



組み合わせ例

- 屋根 アクアフォームLITE
- 壁 アクアフォームNEO
- 床 フェノールフォーム

省エネ住宅*の実現には

*エネルギー消費が少なくても快適に過ごせる住宅

高断熱（断熱性能）

高断熱材を使用し外部からの熱の侵入を防ぐ。これにより、冷暖房のエネルギー効率が向上し、居住空間内の温度を安定させる。

高气密（気密性能）

建物の気密性を高めることで、外部からの空気の流入や逃げを最小限にする。これにより、断熱性能を最大限に活かし、エネルギーの無駄を減少させる。



気密性能に関する規定

$$C値 = \frac{\text{家全体の隙間面積 (cm2)}}{\text{延べ床面積 (m2)}}$$

C値は低いほど気密性が高い。



アクアフォームシリーズ
自己接着性 + 機械吹付け = 隙間がない

C値 ≤ 10.0

気密性に配慮していない一般的な住宅のイメージ。

C値 ≤ 5.0

次世代省エネ基準（平成11年=1999年）において、寒冷地（現在の1地域、2地域）以外で基準とされていた値。

2009年の省エネ法改正に伴い本基準は撤廃。

C値 ≤ 2.0

次世代省エネ基準（平成11年=1999年）において、寒冷地（現在の1地域、2地域）で基準とされていた値。

2009年の省エネ法改正に伴い本基準は撤廃。

C値 ≤ 1.0

快適に暮らすために確保しておきたい水準。地方自治体の省エネ住宅施策で規定されているケースが多い。

やまがた省エネ健康住宅
信州健康ゼロエネ住宅
雪国型ZEH（新潟県）
よこはま省エネ住宅
とっとり健康省エネ住宅
KitaQ ZEH（北九州市）

C値 ≤ 0.5

諸外国で採用している厳しい基準をと比較しても遜色のない高い気密性を有する水準。

札幌版次世代住宅



気密測定サービスの 引き合い増加中

戸建部門の全施工棟数に対する導入割合（見込み）

2023年	2024年	2025年
4.4%	10%超	20%超

- ・大手ビルダーが気密測定を標準化
- ・他の工務店にも気密測定への関心が広がる
- ・当社は業界No.1の気密測定体制を構築



取り組み

前真之 准教授と 技術顧問契約

前 真之（まえ まさゆき）氏

昭和50年生まれ 広島県出身

現職：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 准教授

専門分野：建築環境工学

研究テーマ：住宅のエネルギー消費全般

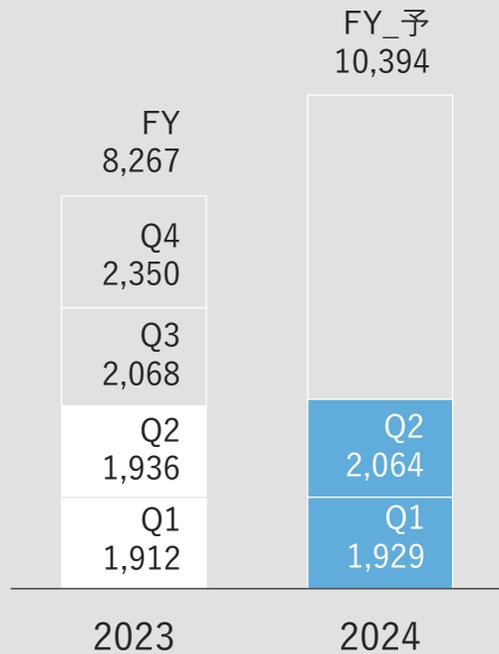
学生時代より25年間以上、住宅の省エネルギーを研究。
健康・快適で電気代の心配がない生活を太陽エネルギー
で実現するエコハウスの実現と普及のための要素技術と
設計手法の開発に取り組んでいる。



Agenda

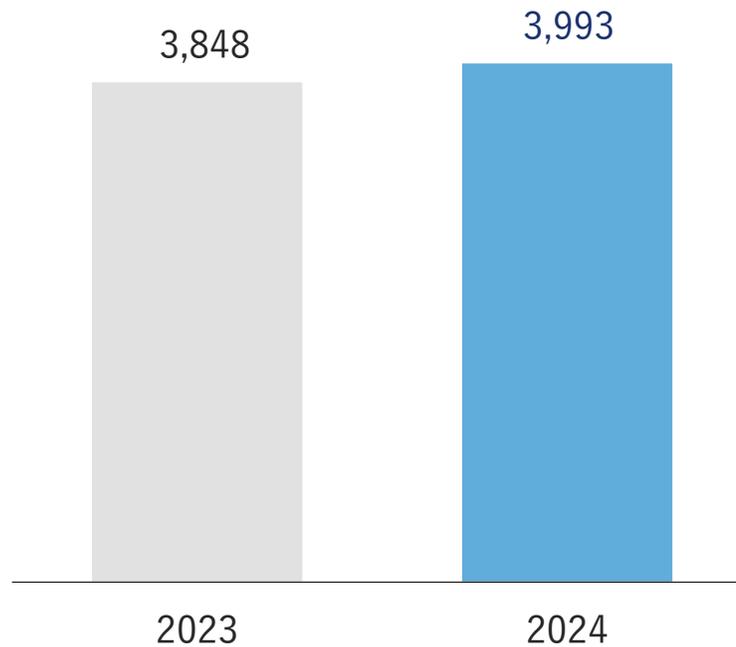
- 01 2024年12月期 第2四半期 (中間期) 決算概要
- 02 市場環境
- 03 戸建部門
- 04 建築物部門**
- 05 防水部門、その他
- 06 Appendix

建築物部門 （単位：百万円）



前年同期比

- ・ 施工単価（平米当たり）は約2%上昇
- ・ 上昇要因はアクアフォームNEO施工の厚み増しと価格改定など
- ・ 施工面積は約2%増加
- ・ 第2四半期（中間期）以降に複数の大規模アクアモエンNEO工事が開始
- ・ 人手不足や建設資材不足等に起因する工事遅延により売上計上にずれ（予想比 △383百万円）



前年同期比 +144百万円 + 3.8%
 売上総利益率 21.1% ▶ 22.5%

建築物部門 通期見通し

（単位：百万円）

		Q1	Q2	Q3	Q4	通期
売上高	2023年	1,912	1,936	2,068	2,350	8,267
	2024年	1,929	2,064	約 3,200	約 3,200	10,394
売上総利益	2023年	361	450	540	610	1,963
	2024年	454	443	非開示	非開示	2,774
施工面積	2023年比	△8%	+12%	+85%	+43%	+33%
施工単価	2023年比	+10%	△5%	△8%	△4%	△2%



施工面積（数量効果）

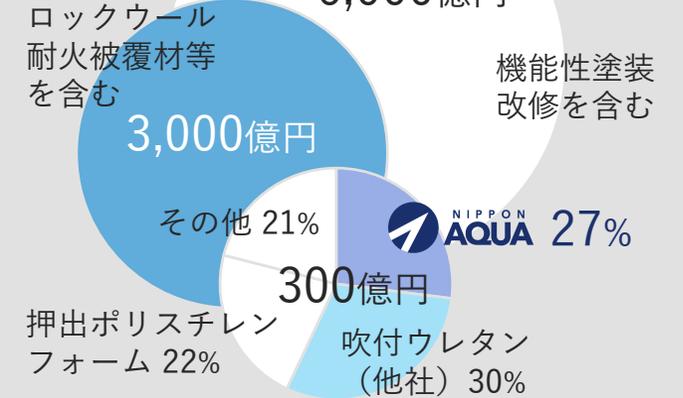
- ・通期の数量効果は+2,728百万円



施工単価（価格効果）

- ・通期の価格効果は△600百万円
- ・アクアフォームNEO施工増加によるセールスマックスにより単価低下

2025年 市場規模予測



競合ウレタン施工者

- ・旺盛な需要を受け一般的には好調
- ・職人の高齢化、採用困難
- ・価格競争では当社より不利（原料仕入価格等コスト高）



- ・不燃断熱材施工（アクアモエンNEO）で差別化
- ・売上予想に対して約86%を受注済
- ・不足分は見積中案件の成約や短期スポット工事に対応

首都圏の再開発 地方の半導体工場

都市名の比率は2023年度基準地価の上昇率

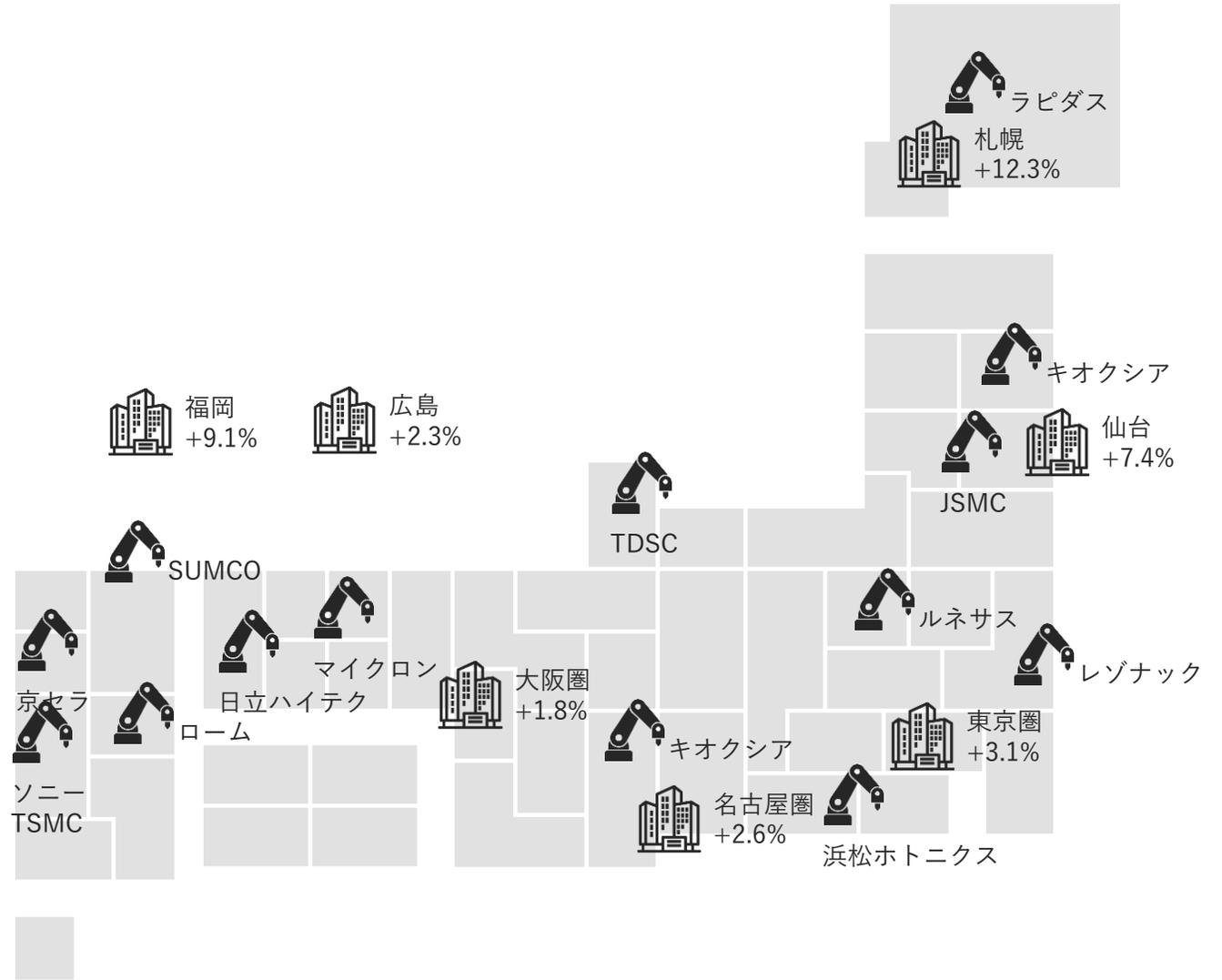
2024年以降の半導体関連の大型設備投資
(当社の受注をお約束するものではありません)

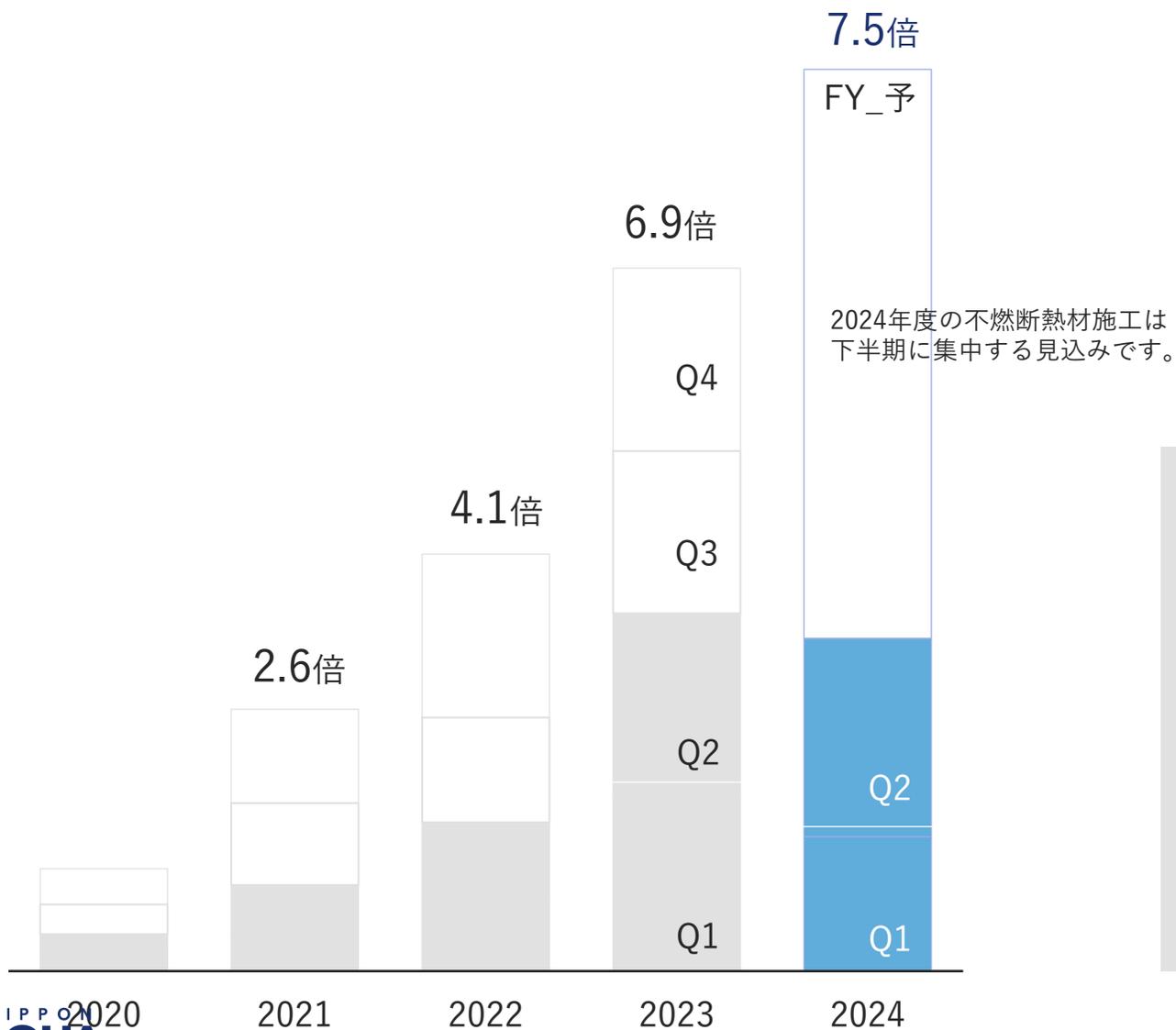
 全国各地で都市再開発が加速
三大都市圏や地方4市は特に顕著

 国策としての先端分野への投資
製造設備の国内回帰

 半導体工場の建設に合わせた
周辺地域のインフラ、商業施設、
住宅などの整備も進む

 大型データセンター（20か所程度
開設見込み）も有望な対象先





取り組み

不燃断熱材の販売金額

(2020年12月期を1とした場合の倍率)



不燃断熱材とは？

国土交通大臣認定の不燃性能を有した高性能断熱材

火災リスクをなくしたいという建築現場の要望から生まれ、建設現場での溶接や鉄骨溶断、溶接の火花等に高い対炎性能を発揮

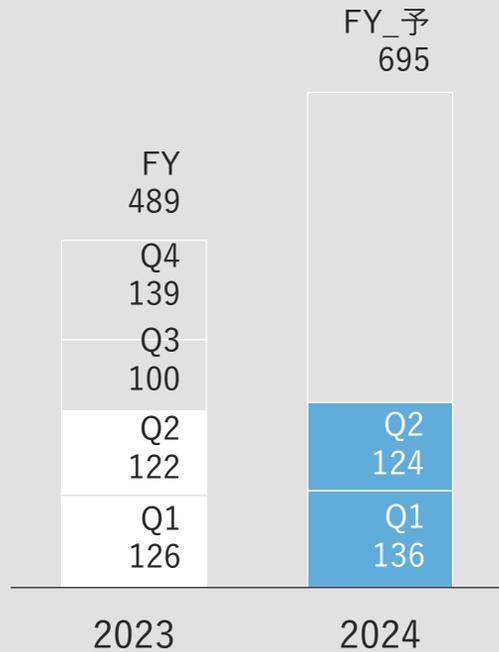


Agenda

- 01 2024年12月期 第2四半期 (中間期) 決算概要
- 02 市場環境
- 03 戸建部門
- 04 建築物部門
- 05 防水部門、その他**
- 06 Appendix

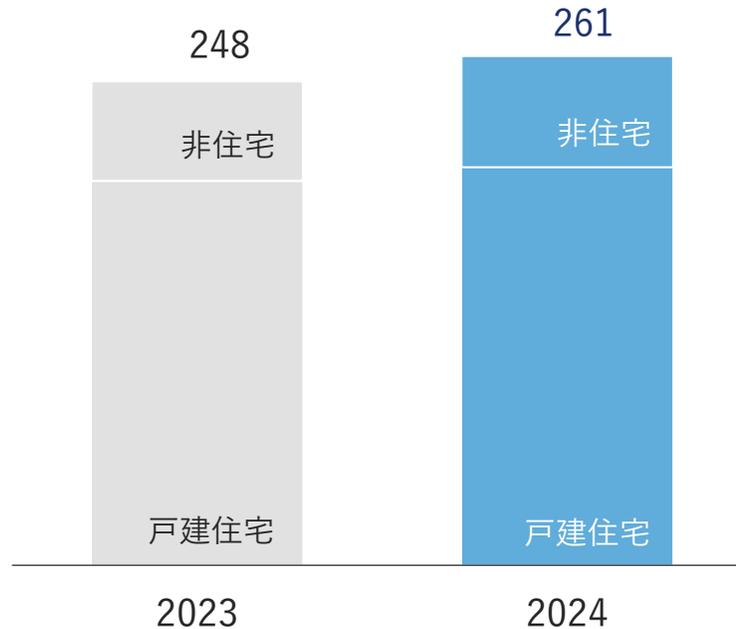
防水部門

（単位：百万円）



前年同期比

- ・戸建住宅向け（ベランダ施工）
戸建部門との連携で既存工法からの切り替えが拡大中
- ・非住宅
アスベスト含有建材を使用した建築物の老朽化対策を積極提案

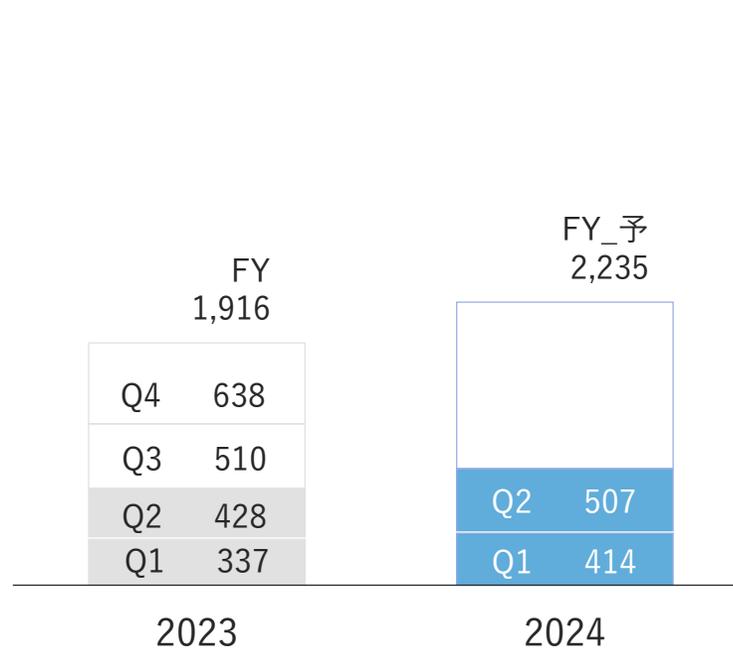


前年同期比 **+12百万円** **+5.1%**
 売上総利益率 **△7百万円**

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	FY2024 Q1	Q2
防水部門売上高	126	122	100	139	136	124
戸建住宅	90	107	91	123	110	93
非住宅	36	14	9	15	25	31

原料販売

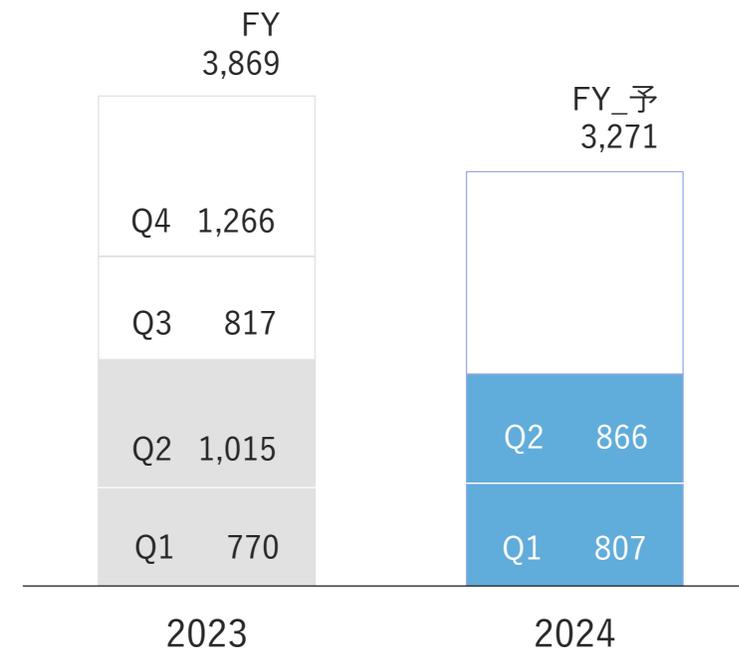
副資材・機械 その他



前年同期比 +155百万円 +20.3%
 売上総利益率 19.0% ▶ 17.8%



- ・建築物向け原料販売が好調
- ・リピート注文が増加



前年同期比 △111百万円 △6.3%
 売上総利益率 25.6% ▶ 20.5%



- ・副資材のキャンペーン販売を実施
- ・吹付機械販売が新機種需要の反動減



1株当たり配当金 (2024年12月期予想)

34.0 円

最近の株価と 配当利回り

680 円 ▶ 5.0 %

755 円 ▶ 4.5 %

850 円 ▶ 4.0 %



今後もプライム上場企業として
持続的成長の実現を目指します。



Agenda

- 01 2024年12月期 第2四半期 (中間期) 決算概要
- 02 市場環境
- 03 戸建部門
- 04 建築物部門
- 05 防水部門、その他
- 06 Appendix**

会社概要

経営理念

人と地球に優しい住環境を創ることで社会に貢献

ビジョン

我々は、断熱技術の革新によりエネルギー総需要を削減し、地球温暖化防止対策と同時に、人々の健康で快適な生活を実現するために存在している。

会社名	株式会社日本アクア (Nippon Aqua Co., Ltd.)	
本店所在地	東京都港区港南2丁目16-2 太陽生命品川ビル20階	
設立年月日	2004年11月29日	
事業内容	建築断熱用硬質ウレタンフォームの開発・製造・販売・施工 住宅省エネルギー関連部材の開発・製造・販売	
役員	代表取締役社長	中村 文隆
	専務取締役	村上 友香
	取締役	永田 和久
	取締役	藤井 豪二
	取締役	宇佐美 計史
	社外取締役	高橋 義昭
	社外取締役	劔持 健
	社外取締役 常勤監査等委員	玉神 順一
	社外取締役 監査等委員	杉田 由貴
	社外取締役 監査等委員	樋口 尚文
	社外取締役 監査等委員	仁科 秀隆
資本金	19億 3 百万円	
従業員数	592名 (単体)	

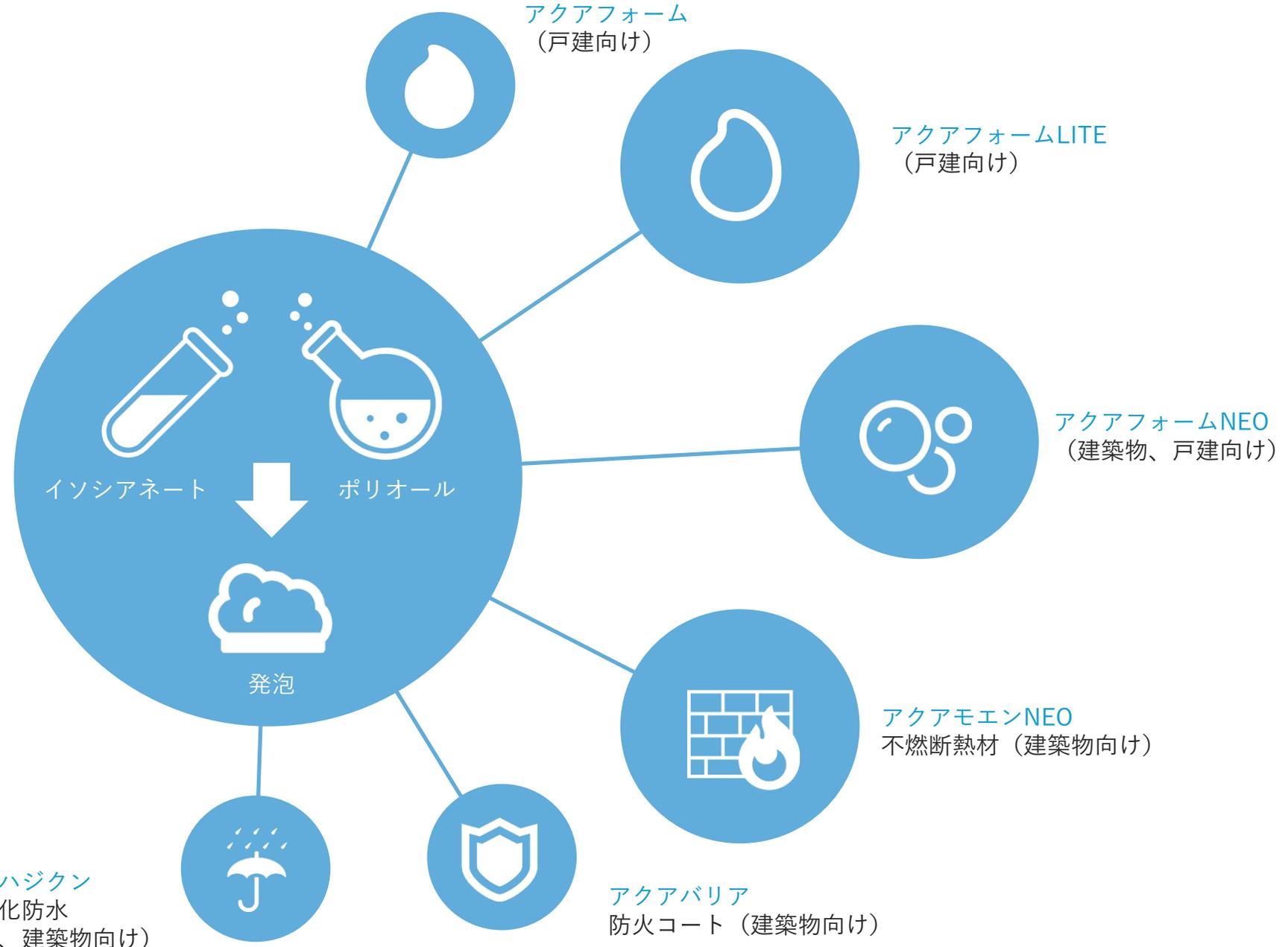
商品展開

2液性ポリウレタンを軸に展開

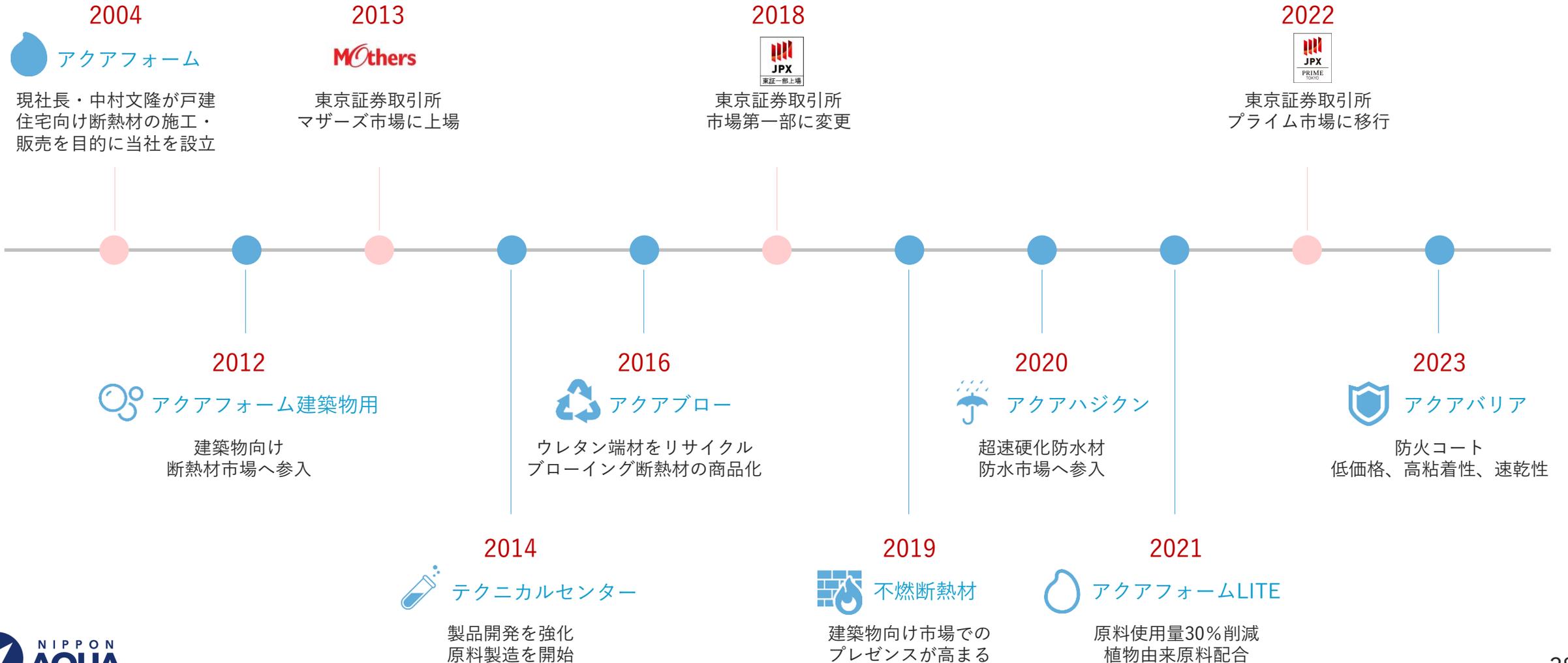
ポリオール
主剤となる水酸基を持つ有機化合物。ポリオールの分子構造や分子量などを変更することで、ウレタンの硬さや柔軟性などの物性を調整する。

イソシアネート
NCO基を含む有機化合物。攪拌などによってポリオールと反応しウレタン結合を形成。

ポリアミン
複数のアミン基を持つ有機化合物。イソシアネートと反応することでアクアハジクン（ポリウレタ樹脂）を形成。



沿革



原料開発から 施工・リサイクルまで

唯一無二のビジネスモデル



ビジネススキーム

断熱材の工事は当社が一括して請け負い
自社及び認定施工店で施工



認定施工店とは

業務委託
完全歩合制

吹付機械（施工機材）の購入
（2トントラックが必要）



営業不要

施工レベルに応じた
工事物件を紹介



ロイヤリティなし

加盟金、保証金はありません



原料を有償支給

原料を支給し施工金額から
差し引くことで資金負担を軽減



技術研修

育成専門部署が
基礎から実践まで幅広くサポート

業績推移 (単位：百万円)



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
業績推移													
売上高	5,475	6,488	9,825	13,020	14,046	15,608	18,052	19,417	21,366	21,872	23,903	25,670	28,341
売上総利益	1,686	1,904	2,444	2,856	3,137	4,027	4,305	3,891	5,403	5,310	4,739	5,784	6,924
売上総利益率	30.8%	29.3%	24.9%	21.9%	22.3%	25.8%	23.9%	20.0%	25.3%	24.3%	19.8%	22.5%	24.4%
営業利益	809	662	956	944	1,013	1,404	1,313	766	1,909	1,896	1,412	2,329	2,875
経常利益	807	662	925	937	1,016	1,404	1,419	764	1,909	1,911	1,429	2,359	2,917
経常利益率	14.7%	10.2%	9.4%	7.2%	7.2%	9.0%	7.9%	3.9%	8.9%	8.7%	6.0%	9.2%	10.3%
当期純利益	457	364	512	529	137	979	941	489	1,275	1,342	953	1,549	2,004

品目別売上高

戸建		5,830	8,044	8,483	9,414	10,903	11,552	12,257	13,244	12,448	13,521	13,873	13,798
建築物		440	883	2,392	2,858	2,601	2,715	3,331	4,144	4,848	5,371	6,838	8,267
防水											128	315	489
原料販売							613	561	933	1,137	1,098	1,211	1,916
副資材・機械・その他		218	897	2,144	2,133	2,103	3,171	3,267	3,043	3,438	3,783	3,430	3,869

品目別売上総利益

戸建					2,305	3,038	2,790	2,217	3,544	3,183	2,772	3,542	3,689
建築物					183	419	526	551	832	1,004	822	1,206	1,963
防水											20	△16	△35
原料販売							140	113	198	212	177	361	342
副資材・機械・その他					648	569	848	1,009	830	909	946	690	968

その他の主要な指標




	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
資産、負債及び資本													
純資産額	715	1,080	5,103	5,529	5,590	6,663	5,508	5,885	6,843	7,638	7,951	7,966	9,304
自己資本利益率 (ROE)	94.0%	40.6%	16.6%	10.0%	2.5%	16.0%	15.5%	8.6%	20.0%	18.5%	12.2%	19.5%	23.2%
総資産額	1,993	2,787	7,982	9,138	11,254	12,596	12,806	14,381	15,379	16,021	18,279	21,969	20,392
総資産回転率 (回)	3.20	2.71	1.82	1.52	1.38	1.31	1.42	1.43	1.44	1.39	1.39	1.28	1.34
自己資本比率	35.9%	38.8%	63.9%	60.5%	49.7%	52.9%	43.0%	40.9%	44.5%	47.7%	43.5%	36.3%	45.6%
有利子負債					1,433	834	2,370	2,776	2,136	2,400	3,166	6,033	2,400

従業員数

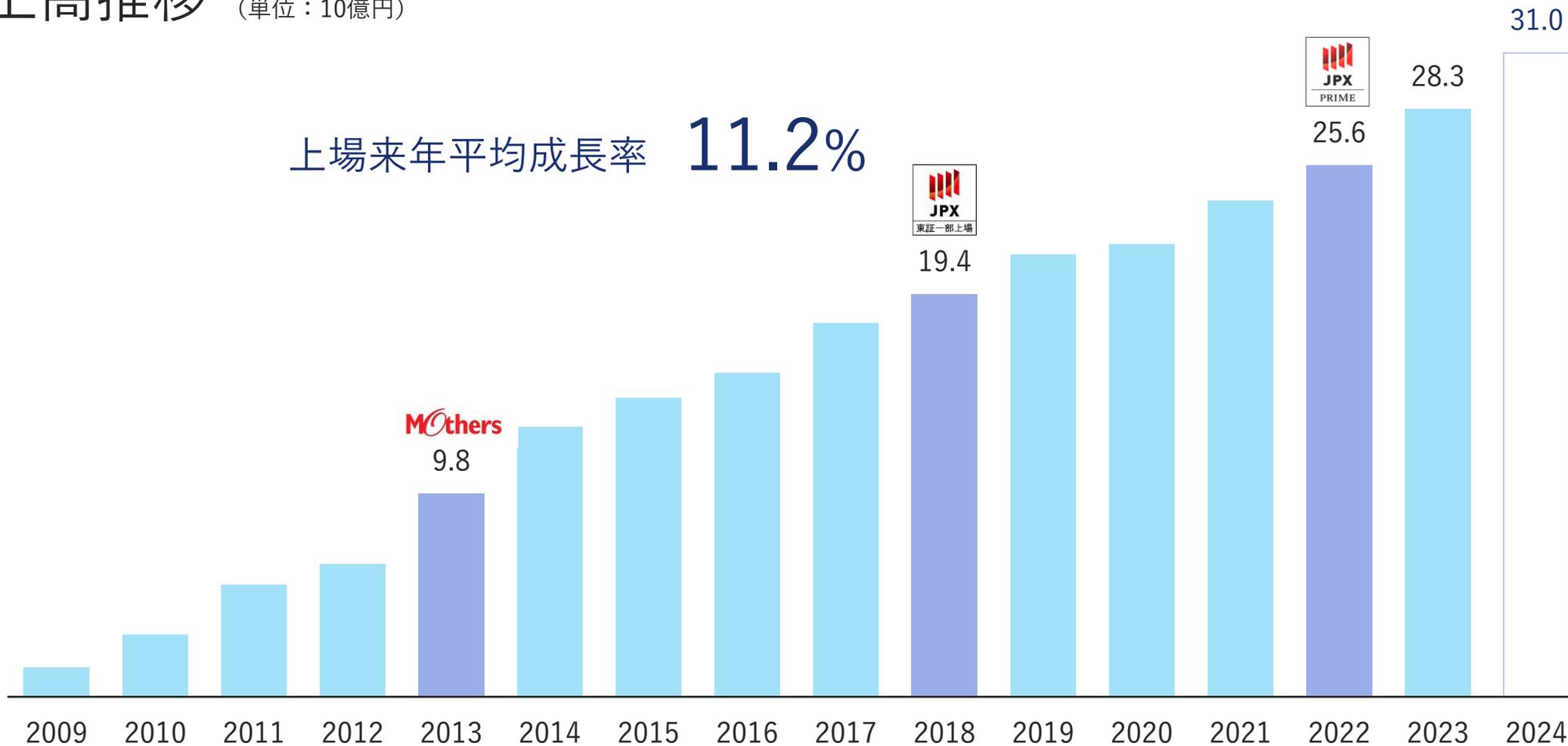
営業			160	184	182	206	233	208	218	218	189	209	215
工務			234	246	206	185	132	180	188	196	168	156	220
管理			21	20	35	27	62	57	69	73	81	58	66
合計	194	298	415	450	423	418	427	445	475	487	438	423	501

株式関係 (2015年1月1日付の1:5分割考慮済)

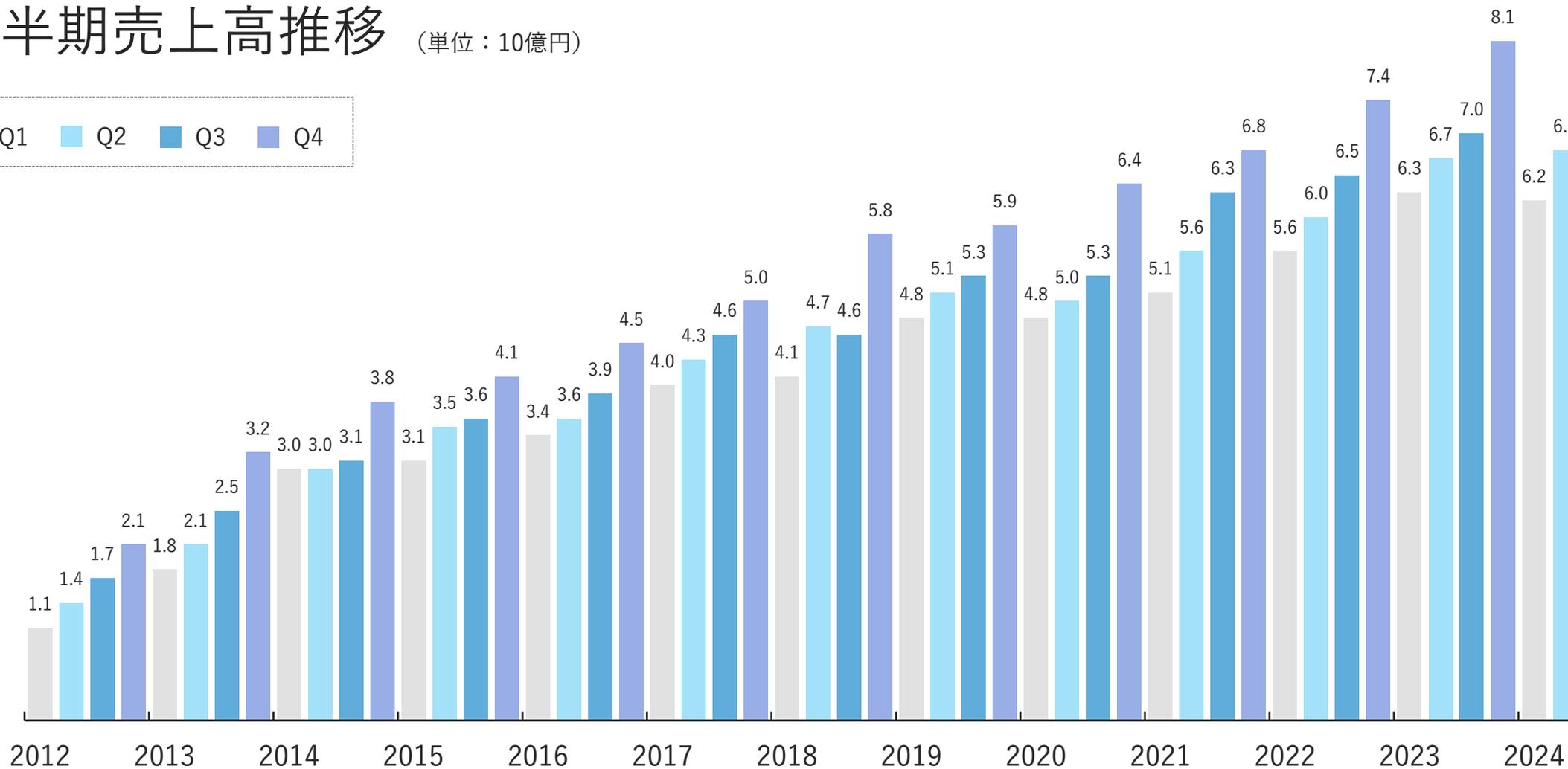
期末株価 (円)			663	845	438	414	498	437	627	649	687	828	887
時価総額			22,892	29,176	15,209	14,960	18,038	15,180	21,792	22,559	23,880	28,781	30,832
1株当たり純資産 (円)			147.81	160.15	161.01	184.40	171.31	182.36	211.88	236.46	246.09	254.41	296.24
1株当たり配当金 (円)			3.00	3.00	3.00	3.00	4.00	10.00	17.00	20.00	20.00	24.00	32.00
1株当たり当期純利益 (円)			20.61	15.33	3.97	27.61	27.84	15.19	39.50	41.57	29.52	47.99	63.83
株価収益率 (PER) (倍)			32.20	55.10	110.30	15.00	17.90	28.80	15.90	15.60	23.30	17.30	13.90

売上高推移 (単位：10億円)

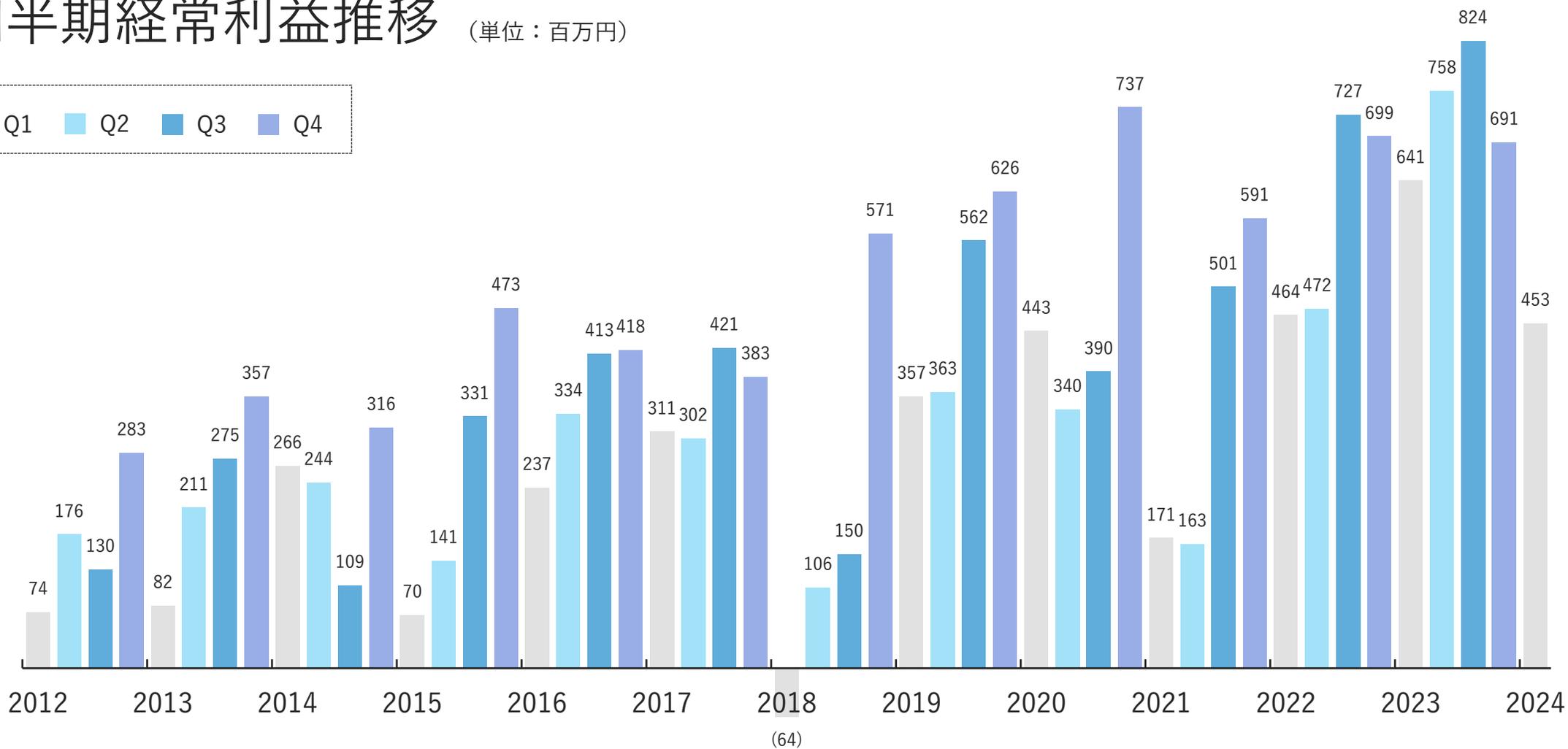
上場来年平均成長率 **11.2%**



四半期売上高推移 (単位：10億円)



四半期經常利益推移 (単位：百万円)





主力2製品の熱伝導率が 変わり断熱性能が向上

同じ厚みでさらに高い断熱性能を実現

熱伝導率の改善（断熱性能向上）とは

熱の伝わりやすさを数値で表したものを、熱伝導率という。熱伝導率は、物質の厚さが1 mで両面の温度差が1°Cのとき、1㎡あたりにどれくらいの熱量（W）が伝わるかを示しており、単位はW/(mK)【ワット毎メートル毎ケルビン】で表される。

U値（熱貫流率）の簡易的な求め方（UA値は各部位のU値の平均）

U値 (W/m²K) = 1/熱抵抗値

熱抵抗値 (m²K/W) = 材質の厚み (m) / 熱伝導率 (W/mK)



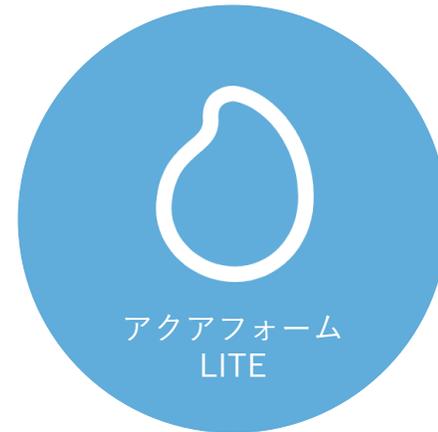
アクアフォーム

0.036 ▶

0.033 W/mK

U値=0.383 (85mm吹付で計算)

業界最高水準



アクアフォーム
LITE

0.038 ▶

0.036 W/mK

U値=0.423 (85mm吹付で計算)

熱伝導率と断熱材の厚み

アクアフォームLITE（厚み85mm）と同レベルの断熱性能にするには

	 アクアフォーム NEW!	高性能 グラスウール40K	 アクアフォーム LITE NEW!	高性能 グラスウール24K	高性能 グラスウール16K
熱伝導率	 0.033 W/mK	 0.034 W/mK	 0.036 W/mK	 0.036 W/mK	 0.038 W/mK
厚み	 77.9 mm ポイント!	 80.2 mm	 85.0 mm	 85.0 mm	 89.7 mm
重さ	 14.0 kg/m ² ポイント!	 40.0 kg/m ²	 10.0 kg/m ² ポイント!	 24.0 kg/m ²	 16.0 kg/m ²

ZEHとは

ゼッチ：ネット・ゼロ・エネルギーハウス

住宅部門の省エネ性能の向上の具体策として、ZEHの普及がある。

ZEHとは、住宅で使う一次エネルギーの年間消費量を概ねゼロにするものであり、断熱、省エネ、創エネの組み合わせで実現。

建築物においてはZEB（ゼブ）と呼ばれるZEH同様の取り組みが進められている。



省エネ性能表示制度

住宅・建築物のゼロ・エネルギー化のために必要なのは、誰もが「省エネ性能で建物を選べる」ようにすること。

2024年4月から住宅・建築物を販売・賃貸する事業者は、省エネ性能ラベルの表示が努力義務となる。





市場環境

エネルギー消費性能とは



一次エネルギー消費量等級

$$BEI = \frac{\text{設計一次エネルギー消費量 (省エネ手法を考慮したエネルギー消費量)}}{\text{基準一次エネルギー消費量 (標準的な仕様を採用した場合のエネルギー消費量)}}$$

*誘導基準とは

省エネ性能の向上の促進を誘導すべき基準で、省エネ性能向上計画の認定に当たって適合しなければならぬエネルギー消費性能とされている。建築物省エネ法に基づいて定められている。2016年4月1日から施行。



市場環境

断熱性能とは

	誘導基準					最高等級	
	等級 1	等級 2	等級 3	等級 4	等級 5	等級 6	等級 7
6 地域 (東京他)		UA値 1.67	UA値 1.54	UA値 0.87	UA値 0.60	UA値 0.46	UA値 0.26
6 地域 (東京他)			η AC値 3.8	η AC値 2.8	η AC値 2.8	η AC値 2.8	η AC値 2.8
					ZEH	HEAT20 G2	HEAT20 G3

断熱等性能等級

UA値 = 外皮平均熱貫流率
ユーエー (建物からの熱の逃げやすさ)

×

η AC値 = 冷房期の平均日射熱取得率
イータエーシー (建物への日射熱の入りやすさ)

断熱地域区分と断熱等性能等級

(単位：UA値)

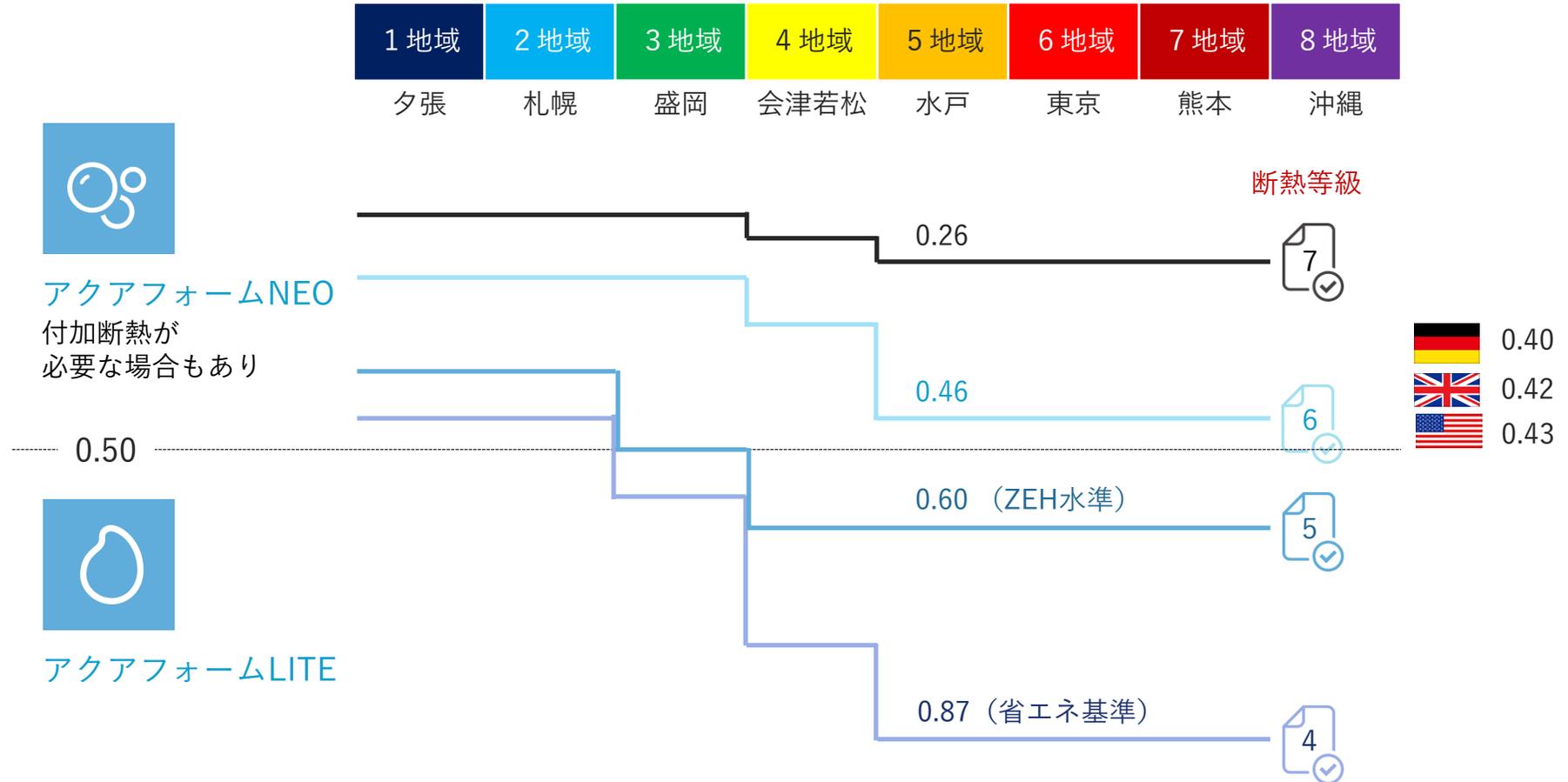
外皮性能レベル

戸建住宅の断熱等性能等級（以下、断熱等級）の上位化およびZEHの普及が当社に与える影響。

断熱等級の基準は全国统一されたものではなく、気候などにより地域が区分されている。（各地域については代表都市を参考）

東京、名古屋、大阪、横浜、神戸など大都市の多くは6地域。

同じ断熱等級5でも地域によってUA値（外皮平均熱貫流率）は異なり、数字が小さい方が高い断熱性能を求められる。





断熱性能等級による仕様への影響

東京都など6地域



断熱等級4
省エネ基準



アクアフォームLITE



金属 複層 Low-E



断熱玄関ドア

断熱等級が上位化すると断熱材だけでなく、ドアやサッシの断熱性能も高める必要があり、省エネ基準（断熱等級4）より施工金額が高額になる。



断熱等級5
ZEH水準



アクアフォームLITE



アクアフォーム



金属・樹脂 複層 Low-E



断熱玄関ドア

当社の試算では東京都など6地域における標準的な戸建住宅の場合、ZEH水準（等級5）になると断熱材の厚みが増すため施工単価は省エネ基準（等級4）の1.2～1.5倍。



断熱等級6
東京ゼロエミ住宅等



アクアフォーム*



アクアフォームNEO



金属・樹脂 三層 Low-E（2枚）



断熱玄関ドア

東京ゼロエミ住宅等（等級6）になるとアクアフォームあるいは、上位製品のアクアフォームNEOを使用、施工単価は省エネ基準（等級4）の1.7～3.0倍。

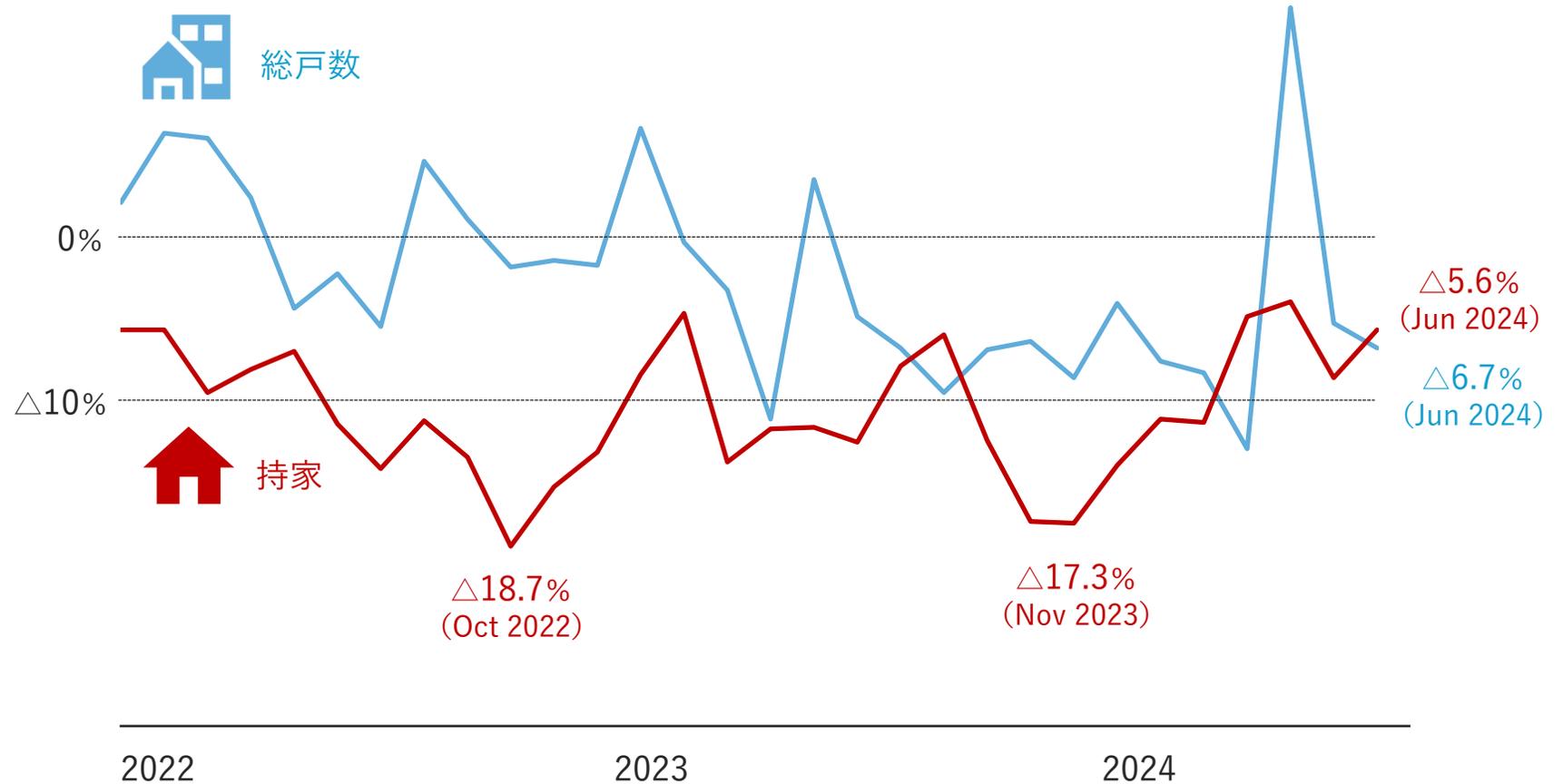
*2024年4月からアクアフォームの熱伝導率が変わり断熱性能が向上したため、条件付きながら等級6の仕様が可能となりました。

新設住宅着工戸数

(前年同期比)

当社の戸建部門は、注文住宅の施工が多いため、持家との親和性が高くなります。

マンションは、総戸数に含まれておりますが、当社では建築物部門に計上しています。



お問い合わせ先

管理本部 経営企画部（担当：小室）
03-5463-1117
m.komuro@n-aqua.com

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料は、株式会社日本アクアの財務情報・経営情報等に関する情報提供を目的としたものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為を目的とするものではありません。実際の投資に際しては、ご自身の判断と責任において投資判断を行っていただきますようお願い致します。また、本資料の記述内容につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

本資料には、当社の計画など将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づいており、様々なリスクや不確実性が内在しています。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。また、新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来に関する記述を更新、変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

本資料の内容に関する一切の権利は当社に帰属しております。複写及び無断転載はご遠慮ください。